

第19回 北海道小・中・高校生短歌コンテスト 【講評】

歌人（公財）北海道文学館監事 阿知良 光治

今回の応募者は、小学一～三年生の部以外は応募者が増え、特に中学生の部では一、五七〇人も増え合計七、二七二名でした。応募団体数は二二〇校で、特別支援学校が二校あり学習塾からの応募もありました。第一次審査通過者は三三三名、第二次審査に残ったのは二四八名、そのうち入賞者は八八名でした。審査に当たる私たちは「今年も心に残る素晴らしい作品に出合えますように」と期待しながら慎重に審査に当たりました。入選以上の作品は厳しい審査を通過した何れも優秀な作品です。これから応募する皆さんの参考になる作品だと思います。

今回も、学校生活の喜びや、クラブ活動での頑張りなど、一人一人の思いがこもった素晴らしい作品に出合うことが出来ました。

短歌は自分の気持ちを素直に表現することで、読む人に感動を与える文芸です。「心の叫び」であると言う歌人もいるほどです。最終審査に残った作品はそれぞれの学年の発達段階にふさわしいもので、身の回りの生活の様子が素直にうたわれており好感が持てました。中でも特別賞に輝いた作品はそれぞれ工夫の跡が見られ独自の見方、考え方が際立っており素晴らしい作品でした。

これからも、日々の暮らしの中で見たことや感じたことを、皆さんなりの言葉で飾らずに表現した新鮮な作品に出合えることを期待しています。

入選された皆さん、おめでとうございます。

※掲載は部門別に学校名の五十音順。同学校内では学年順、同学年内では氏名の五十音順。

〔各作品の講評執筆〕

特別賞／優秀賞・佳作・入選（小学生の部） 阿知良光治

優秀賞・佳作・入選（中学生・高校生の部） 吉田 理恵

《特別賞 北海道教育委員会教育長賞》

おさがりの制服少し大きくて早く追いつけ体と頭

苫小牧市立明野中学校 1年 三浦 鈴

【講評】おさがりの制服を着て、中学校の入学式に参列したのだが少し大きかったのである。しかし、それを残念に思うのではなく、自分自身がその制服に合うように成長したいと前向きに表現したところが、この作品の優れているところである。

《特別賞 北海道立文学館賞》

朝焼けの緋色に染まる小樽港うねる水面に鷗飛び交う

北海道小樽水産高等学校 1年 山崎 樹

【講評】早朝の小樽港の様子を、「緋色に染まる」と写實的に表現して巧みである。特に「うねる水面」と「鷗」の取り合わせが見事で、作者の観察眼に圧倒される。さらにリズム感があり読んでいて心地よい充実感を覚える作品である。

《特別賞 北海道歌人会賞》

黒岳の山頂に立ち深呼吸大きくほおばるさんかくむすび

札幌市立中央小学校 5年 井上 椿

【講評】黒岳へ登り、その山頂で食べるおむすびの味は格別であろう。深呼吸して「大きくほおばる」様子が目に見えるようである。読む者にもその美味しさが伝わってくるような作品である。

《特別賞 北海道新聞社賞》

かわいいねうちのねこちゃんほごねだおなかのけだけむぎばたけみたい

帯広市立明和小学校 1年 石邑 奏多

【講評】子供らしく、猫に対する優しい思いがよく出ている。特に一気に畳たたみ込むように上の句でうたい、下の句でおなかの毛に注目し「むぎばたけみたい」と表現したところにこの作者の発見があり、素晴らしいところである。

《優秀賞》

小学一～三年生の部

かっこいいじゅえきをなめるくろいかげつよいおおごミヤマクワガタ

札幌市立幌北小学校 1年 田中 希

【講評】

「じゅえきをなめるくろいかげ」とミヤマクワガタをよく観察し、丁寧に表現しているところがこの作品の優れているところである。また、結句を「ミヤマクワガタ」と体言(名詞) 止めにしたところにミヤマクワガタの力強さが良く出ている。

なりひびくたいこの音にはやし声ヨイサヨイサのリズムでおどる

田中学園立命館慶祥小学校 3年 亀山 空翔

【講評】

お祭りの様子を上の句で「たいこの音」と「はやし声」と表現し、賑やかさが良く出ている。さらに下の句で、具体的な「ヨイサヨイサ」というかけ声を示したことで、踊っている様子が臨場感あふれるよい作品となっている。

小学四～六年生の部

兄の背を自転車こいで追いかけてあわてて帰る夏の夕立

札幌市立三角山小学校 6年 猪熊 建瑠

【講評】お兄さんを自転車で追いかけていた時に、急に夕立が降ってきたのである。その時の情景が「あわてて帰る」と無理なく丁寧に表現されており、下の句を「夏の夕立」と体言止めにしたところがこの作品の優れたところである。

花柄の浴衣をまといばち握り叩けや踊れ花舞う盆夜

札幌市立平岡南小学校 6年 川原 優菜

【講評】太鼓を叩いている人の様子を「花柄の浴衣をまとい」とよく観察しており、作者の表現力が生きている。また、この作品も「花舞う盆夜」と体言止めにしたところが作者自身の言葉となり、優れた作品となっている。

中学生の部

駆け抜ける誰より早くトライへとかかってこいよ俺は負けんぞ

美幌町立美幌中学校 2年 西川 桜次

【講評】作者はラグビー部のようだ。気の強さがこの歌を際立たせている。スポーツ選手はこうでなくてはと思う。初句の倒置に臨場感があり効果的である。気持ちを包み隠すことなく真つすぐに表している点がとても良い。

水の中全ての音が遮断する壁まで届けあと5メートル

室蘭市立桜蘭中学校 2年 木村 仁

【講評】水泳の試合か練習か。数秒の世界の表現がとても上手い。毎日、懸命に練習をしているからこそ、体感で「あと5メートル」がわかるのだらう。孤独な自分との闘いが「全ての音が遮断する」に集約されている。

高校生の部

変わりゆく未来への的見定めて決意の一矢揺らす秋風

北海道岩見沢東高等学校 2年 中川 結意

【講評】作者は弓道部だろう。未来は今の続きだけれど、確実に今とは変わっていると感じている。自分の描く未来を狙うように一矢を放つがその矢を秋風が揺らす。未来への希望と不安が見え隠れする心情を上手に表現している。

我が思い全てぶつける王手飛車風向き変われこの一手にて

北海道札幌手稲高等学校 1年 福村 聡

【講評】盤上に王手の飛車をピシヤリと打った。この一手に全てを込めて風向きが変わることを強く願う思いが伝わる。一瞬をよく捉えて見事な一首に仕上げた。具体的な「飛車」、下の句の倒置が効果的である。

《佳作》

小学一～三年生の部

迫る球振ろうか見るかけつだんだカキンと空に大ホームラン

札幌市立幌北小学校 3年 田中 歩

【講評】バッターボックスに立って集中している様子が、「振ろうか見るか」とリズムカルに表現されており、「けつだん」という強い言葉が、下の句の表現とよくマッチしている。

スリーディーめがねつけたらしゅじんこうきょうりゅうじだいでたべられかけた

札幌市立本町小学校 1年 武田 碧斗

【講評】「スリーディーめがね」をかけた体験を、自分を主体として表現し実感が良く出ている。結句を恐竜に「たべられかけた」としたところも子供らしく、たくましい想像力で好感が持てる。

森のなか木のおいしたあのホテルきぶんはまるでりすみだいな

札幌市立円山小学校 2年 高草木絢葉

【講評】森の中のホテルに泊まった体験を実際に「木のおい」と嗅覚で表現していて特徴がある。また、下の句で自分を「りす」に例えたところがこの作品を生き生きとしたものになっている。

ボール来たあいてかわしたあとすこしぜったい決めるきれいなゴール

苫小牧市立清水小学校 3年 佐藤 碧人

【講評】球技の試合の様子を、具体的な動きとして表わしているところが優れている。豊かな表現力で臨場感が良く伝わってくる。また、自分の決意を下の句に持ってきたのも生きている。

小学四～六年生の部

沖繩で快晴の空青い海家族みんなでイーヤーサーサー

札幌市立札幌苗緑小学校 6年 菅原 心遥

【講評】家族で沖繩へ旅行した時の印象を丁寧に表現している。特に空と海を「快晴の空青い海」と対比したところが成功している。下の句の「イーヤーサーサー」と言う沖繩のかけ声がこの作品を躍動感のあるものにしていく。

水しぶき最前列は潮のあじイルカのジャンプ小樽の空へ

札幌市立明園小学校 5年 東中 康樹

【講評】小樽の水族館でイルカのジャンプを見た様子を生き生きと表現している。特に最前列で見えたことがよくわかる「潮のあじ」という実体験として詠んだことで迫力のある作品となっている。

珠はじく母からもらったそろばんと初段目指してねがいは

北海道教育大学附属札幌小学校 4年 板垣 珠実

【講評】お母さんが使っていたそろばんで、作者も珠算教室に通っているのである。初段を目指す気持ちが結句の「ねがいは」というかけ声で表現されているところが優れている。

夏の夜きれいな花が空に咲くいつも主役の星は

留萌市立緑丘小学校 4年 田村 優衣

【講評】夜空ではいつも主役の「星」を花火大会の時だけは「お客」と考え、花火を「空に咲く」「花」と表現したところが、作者らしい思いが伝わる優れた作品になっている。

中学生の部

オリンピックどんな時でもあきらめない僕にも湧いたあふれる勇気

札幌市立平岡緑中学校 2年 近藤 珊瑚

【講評】今年パリオリンピックに沸いた年だった。作者と同じ思いでテレビ越しに選手を応援した人は多いだろう。勇気をもたらした思いを素直に詠んだことが評価された。

五所川原うだる暑さに負けぬよう一気に飲み干すリンゴサイダー

札幌市立真駒内中学校 1年 井上あおい

【講評】青森県の五所川原市^{ごしょがわら}と言えば真夏の立佞武多^{たちねぶた}が有名だが、作者は見物したようにも思える。下の句のリズムが良く、飲み干した感じを引き立てている。「リンゴサイダー」も効果抜群である。

汗流し裸足で歩く澄んだ青あなたと拾ったあのシーグラス

札幌市立宮の丘中学校 2年 坂井 楓

【講評】一読するだけで、情景が目には浮かぶ。夏の青い空、青い海、ゆったりとした時間。美しい「シーグラス」をあなたと拾うかけがえのない幸せな時間を見事に表現している。

ワタシ以外読めるはずない楽譜には黒く染まったデクレッシェンド

美幌町立美幌中学校 2年 佐々木佳乃

【講評】練習に練習を重ねて楽譜は自分にしかわからない書き込みでいっぱいだ。練習を重ねたことが自慢げにならないように軽くカタカナで「ワタシ」として工夫も感じる。

高校生の部

猛暑日の坂道のぼり見渡せば祝津の海と遠い山並み

北海道小樽水産高等学校 3年 大石なつ美

【講評】水族館のある祝津の坂から見渡した風景だろう。暑さの中、坂を上り振り向くと美しい小樽の景色が広がっていた。坂道を上った甲斐がある。小樽の風景を作者は愛しているのだろう。

朝顔の咲きそめし色むらさきの夏的光を受けて揺らめく

北海道小樽水産高等学校 3年 大田 心愛

【講評】趣のある歌に仕上がった。朝顔を丹念に見つめ一首にまとめている。咲き始めたばかりだから、まだか細くて揺らめいているのだろう。とても大人びた高尚な詠い方である。

桜散り緑が芽吹く季節来てそよ風運ぶ新緑の香り

北海道札幌視覚支援学校 2年 岩本 果穂

【講評】とても爽やかな歌で季節感を良く捉えている。桜が散るといよいよ緑が濃くまぶしくなる。そよ風に乗って新緑の香りも運ばれてくるのだ。五感で初夏を感じ取っているのだ。

青い空麦わら帽子に日差し受け風吹き抜けるひまわり畑

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 2年 南 敢太

【講評】真夏を表す言葉選びが抜群に上手い歌だ。読む者を一瞬にしてひまわり畑へと誘ってくれる。風が吹き抜けて麦わら帽子が飛ばないようにとそとと手を添えた作者まで目に浮かぶ。

《入選》

小学一～三年生の部

お母さんおこつていたらおにみたい近くになるとやさしいにおい

札幌市立札幌小学校 3年 成田 環花

【講評】お母さんに怒られた時は怖いけど、そばによると、「やさしいにおい」がするという素直な表現で、ほほえましい作品になっている。

クリスマスポロンポロンとピアノひくきいてほしいなジングルベルを

札幌市立しらかば台小学校 3年 管井まどか

【講評】作者はピアノを習っているのであろう。クリスマスの時は「ジングルベル」をひくので、誰かに聴いて欲しいという子供らしい思いをそのまま表現して読者に訴えかけている。

なみの音太陽うつる海の上すつつのはまでアイスクリーム

札幌市立新琴似小学校 3年 青山 楓

【講評】寿都の海へ海水浴に行った時のことであろう。上の句で海の情景を「太陽うつる海の上」と表現しながら、結句で「アイスクリーム」をもってくる子供らしい発想で好感が持てる。

アスレチックバランスとつてすすむんだふるえる足でおととつとつと

札幌市立新琴似南小学校 2年 神山 葉凜

【講評】アスレチック遊具のある施設へ行ったのであろうか。結句の「おととつとつと」にバランスをとる様子がよく出ていて、実際に体験している姿が目に見えるようである。

あみを手にバツタやチョウをおいかけるあれは石かないやクワガタだ

札幌市立西園小学校 3年 富樫 隆聖

【講評】作者は、昆虫採集が大好きなのであろう。昆虫を追いかける様子を上の句で表現し、下の句では目を転じて「あれは石かないやクワガタだ」と具体的なものを示したことでこの作品を引き締めている。

水かえてよろこびがおのウーパールーパーエサをやる手のゆびにキスされ

札幌市立中央小学校 2年 水野 敢太

【講評】これも子供に人気のあるウーパールーパーを題材にして、「水かえてよろこびがお」という優しい表現が生きている。特に、結句を「ゆびにキスされ」と結んだところが子供らしくて好感が持てる。

うみのあじかつおのたたきひとつまみすこしおとなになったきぶんだ

札幌市立苗穂小学校 1年 前澤 要汰

【講評】お父さんが大好きな「かつおのたたき」なのであろう。それを「うみのあじ」と表現し、つまみ食いたたきで少し大人になった気分と、明るくほほえましい作品となっている。

ふしぎだな砂鉄のスライム生きてるの？磁石めがけてニョロニョロうごく

札幌市立苗穂小学校 3年 山本健太郎

【講評】砂鉄の粉塵ふんじんに磁石を近づけて動く様子を、興味深く観察している様子が良く出ている。子供心に湧いてくる好奇心を「ニョロニョロ」という擬態語ぎたいごを使って上手に表現している。

急流で岩をのりこえ気がつくとき生まれたきさな知らない君と

札幌市立平岡中央小学校 2年 高井 蓮

【講評】夢中で「岩をのりこえ」沢遊びをしているうちに、知らない友達と仲よくなったのである。「生まれたきさな」とすこし背伸びした言葉も、その場に合った表現となっている。

楽しいなはじめて行ったエスコンでゆうぐに満足野きゆうは見ない

札幌市立前田小学校 3年 石岡 樹依

【講評】今話題の、北広島市にある野球場「エスコフィールドHOKKAIDO」には、いろいろな施設があつて一日いても飽きないという。作者は遊具で遊び満足したのである。結句で「野きゆうは見ない」と言い切ったところも成功している。

じいちゃんとはたけにいったよとつとりのトマトやナスをしゆうかくしよう

札幌市立元町小学校 3年 加藤 梁平

【講評】夏休みに鳥取の祖父の家に遊びに行った体験を一首にしたものである。「トマトやナスをしゆうかくしよう」とやや大人びた表現がこの作品を生き生きとしたものにしてている。

たいへんだ習字の時にすみこぼすあわてるみんなまたまたこぼす

苫小牧市立清水小学校 3年 稲場 雄哉

【講評】学校での出来事なのであろう。習字の学習の時間に墨をこぼしたのであるが、慌てた皆の様子如初句の「たいへんだ」と結句の「またまたこぼす」の表現で、臨場感がよくでてている。

冬の朝早くおきるぞ楽しみだスコップ雪かけかまくら作り

苫小牧市立清水小学校 3年 塚本 創介

【講評】冬休みになり、雪遊びをする喜びを子供らしく前向きに表現し、好感を持った。下の句の「スコップ雪かけかまくら作り」と畳み込むような表現に勢いがあり、成功している。

夏休みじゃらじゃらなったミニトマト丸くて甘くてあめ玉みたい

東神楽町立志比内小学校 3年 中村 曜

【講評】たくさん実ったミニトマトを「じゃらじゃらなった」と特徴のある言葉で表現して実感がある。下の句も子供らしい言葉でミニトマトの味を生き生きと表現している。

アゲハの子大きくなったらどこいくのおなじところにたまごをうむの？

別海町立西春別小学校 3年 丹治 柚咲

【講評】アゲハの子が大きくなったらどこへ行くのか、という子供らしい疑問を素直に作品にしている。また同じところで卵を産むのだろうか、さらに追及しているところが成功している。

夏休み虫とりするぞうれしいなパパといっしょ夕陽がしずむ

八雲町立野田生小学校 3年 林 晃弘

【講評】夏休みになり、お父さんと虫取りをするのを楽しみにしている様子が良く表現されている。特に下の句の「パパといっしょ夕陽がしずむ」という作者自身の表現がこの作品を際立たせている。

小学四～六年生の部

たのしみは楽器を背負い吹きながら音に笑顔のをせる時

旭川市立旭川小学校 6年 本庄 弥海

【講評】旭川で初夏に行われる北海道大行進の様子であろうか。作者は大きな楽器を背負い演奏するのを楽しみにしているのである。下の句の「音に笑顔のをせる」という優れた表現が生きている。

とらえたぞトドにえさやるしゅんかんをさかなが消えたカモメがとつた

札幌市立栄北小学校 6年 木村 桜空

【講評】トドにエサをやる瞬間を捉えたのであるが、そのエサの魚を「カモメがとつた」一瞬を捉え、場面を急転換させたところが、この作品を特色のあるものになっている。

コテージで父と二人でバーベキュー音楽を聞く焚き火見ながら

札幌市立札幌苗緑小学校 6年 黒澤 颯斗

【講評】音楽を聴きながら焚き火を囲み、お父さんとの時間が静かに過ぎていく様子がうたわれ、読む者にもその温かさが伝わってくる優れた作品になっている。

まどの外街も小さく消えていく一瞬思う私は鳥だ

札幌市立西園小学校 5年 廣部 琴

【講評】飛行機に乗っているのであろう。窓から見る景色が、飛行機が高度を上げることで変化していく様子を表現している。結句で「私は鳥だ」と言い切ったところがこの作品を優れたものになっている。

花びらをすずしいかぜがさそいだすたくさんまつてきれいなおどり

札幌市立西岡北小学校 6年 西田 紫桜

【講評】桜の花びらであろうか、風に吹かれて空中を舞う様子を、風が誘い出していると捉え、その花が踊っている
と表現したところがこの作品の見どころである。何の花びらか具体的に詠むとさらに良かったと思う。

しゃこたんの青い海辺でミンミンとセミが鳴いたら夏の合図だ

札幌市立西岡小学校 6年 谷川 優亜

【講評】毎年夏になると積丹しよたんの海へ海水浴に行くのである。それを心待ちにしているのである。「セミが鳴いたら
夏の合図だ」で、もうすぐ海へ行けるという期待感が良く出ている。

思ひ出はからくり屋しき迷いつつかべに激とつハラハラワクワク

札幌市立八軒小学校 6年 江口 結都

【講評】修学旅行の時の思い出なのである。「からくり屋しき」で「ハラハラワクワク」したことがずっと忘れられな
いのである。「迷いつつかべに激とつ」が具体的によく表現されている。

恐怖増すレール見下ろす頂上でそつと目を閉じ覚悟を決める

札幌市立ひばりが丘小学校 5年 寺林 侑

【講評】ジェットコースターであろうか。頂上から一気に急降下するときの心境が「そつと目を閉じ」に良くでてい
る。「覚悟を決める」とやや大げさに表現しているところも面白い。

猛稽古竹刀にぎって決勝戦今こそ放つ面・小手・胴を

札幌市立平岡公園小学校 6年 宮崎 志道

【講評】剣道の試合の様子を下の句で「今こそ放つ面・小手・胴」と一気に詠みくだしたことで引き締まった作品になっ
ている。この結句で、今まで猛稽古してきたことが良く伝わってくる。

物語あらたなページめくる時暑さもきえる自分の世界

札幌市立藤の沢小学校 6年 陣内 結子

【講評】読書家なのであろう。物語を読むと、その度にその世界へ入り込んでしまうのである。「暑さもきえる自分の世界」で読書に集中していることが良く伝わってくる。

サクラマスさんびきいっせいジャンプして水がなる音ぼくをはげます

標津町立標津小学校 4年 柴田 樹

【講評】サクラマスが上流に向かう様子を、よく観察して勢いがある。「さんびきいっせい」と具体的な数で表現したのも成功している。下の句の「水がなる音ぼくをはげます」と自分に引きつけたところが優れている。

暑い夏背中を押した大きな手笑いと一緒にブランコゆれる

千歳市立みどり台小学校 4年 坂口 柊斗

【講評】ブランコに乗っている作者の背中を押したのはお父さんであろうか。「大きな手」と具体的に表現し、下の句の「笑いと一緒にブランコゆれる」が、和やかな雰囲気をよく伝えている。

先ばいのせなか追いかけてエスコンに再び来ると仲間とちかう

名寄市立名寄西小学校 4年 岩永 和篤

【講評】エスコンで野球の試合があったのであろう。先輩の活躍を見て、自分も今度はこのエスコンで先輩のように活躍することを仲間と約束したのである。「仲間とちかう」と言い切っているところがよく伝わってくる。

夏祭り笛やたいこが鳴りひびくひかりかがやく沼田あんどん

留萌市立緑丘小学校 4年 大内 千尋

【講評】この夏祭りは、地域の伝統的な行事なのであろう。作者は夏祭りの様子を上の句で表現し「沼田あんどん」が主役なので、結句にもってきたことで、引き締まった良い作品になっている。

中学生の部

よし解けた悩んで悩んだこの問題みんなが諦め僕だけ解けた

旭川市立春光台中学校 2年 杉本 陵亮

【講評】初句切れが効果的である。数学の問題であろうか。「解けた」が二度も詠みこまれていて難題を解いた達成感を感じる。諦めずに挑み正解を導いたさすががしさも伝わる。

授業中ふと隣見て苦笑するいつも通りに居眠り二人

北広島市立東部中学校 2年 伏見 苺音

【講評】昼食後の授業風景であろうか。隣の席の二人はいつも居眠りをしているようだ。寛容な先生と作者、クラスメイトの様子が浮かび微笑ましい。軽やかな歌なので体言止めが効いている。

鉄棒で翼広げて飛ぶ選手着地決めてよ思わず祈る

北広島市立緑陽中学校 2年 宮腰 真央

【講評】今年のパリオリンピックの日本男子体操の活躍は目覚ましかった。空中を物ともせず自由自在に技を繰り出す選手を見て翼があるかのように感じたのだろう。「翼広げて」が際立っている。

人を見て態度を変えるうちの猫私はいつも満身創痍

札幌光星中学校 3年 岡 絢音

【講評】猫は気まぐれだ。作者は飼った猫をとて愛しく思うけれど、猫はどうか。猫に翻弄ほんろうされている自分自身を四字熟語の「満身創痍」で上手に表現している。体言止めが効果的である。

自主研修運河の風を浴びながら遠くに聞こえるオルゴールの音

札幌市立厚別南中学校 2年 北川 尚希

【講評】札幌から小樽へ自主研修に来た作者。街の違いを感じたことだろう。そんな中、運河に佇ただすっていると風に乘って遠くのオルゴールの時報が聞こえてきて感動したのだ。

あの日まで恋をしていた僕たちはクラゲのように消えてしまった

札幌市立札幌北中学校 2年 中野渡ひかり

【講評】雰囲気のある歌だ。クラゲは透明でフワフワとしていて得体の知れない物にも感じる。「僕たち」の想いが淡く消えてしまったと読んでみた。比喩で見事に恋を表現している。

知床の流水の先写る島曾祖父の果て地涙覚える

札幌市立札幌北中学校 2年 増田 啓佑

【講評】北方領土は未だ返還ならず、故郷を失った曾祖父の気持ちを作者も受け継いでいるのだ。「果て地」が効果的であるとともに、冬の厳しさが一層、悲しみを深くする。

レンズ越し制服姿の僕を見るじいちゃんの顔笑みがこぼれる

札幌市立西岡北中学校 1年 小林 光慧

【講評】中学生になり初めて制服を着た作者を祖父が写真に収めたのだらう。成長を見守ってきた祖父の気持ちが伝わる温かい歌だ。祖父の笑顔を見て作者も中学生生活への思いを膨らませたことだろう。

日曜日終わり感じるサザエさん憂鬱な響きジャンケンポン

札幌市立東白石中学校 2年 渡辺 悠生

【講評】エンドロールからジャンケンとなり番組は終了するが、次の日からの登校が頭をよぎる。明るい響きのジャンケン対決さえ作者には気が重いのだ。作者にエールを送りたくなる一首だ。

竿揺れる真つ暗闇の湖で釣りあげたのは光る桜鱒

札幌日本大学中学校 3年 三上 颯大

【講評】一読で読み手をその場まで連れて行ってくれる歌だ。光景が手に取るように伝わる。過不足なく一連の時間の流れと動作を見事に詠み込んでいる。「光る桜鱒」も目に浮かぶ。

リード囁むさあ聞け客よ顧問には地味と言われた私のソロを

伊達市立伊達中学校 2年 毛利ののか

【講評】「顧問には地味と言われた」演奏も、懸命に練習をして自分の音色を表現できるという自負がある。その思いが呼びかけからの命令形「さあ聞け客よ」に集約されている。意気込みを上手に表現した。

昼下がりが風が窓から吹き抜ける透けて広がる白いカーテン

苫小牧市立苫小牧東中学校 2年 高畠 綾乃

【講評】何でも無い光景だが、その光景を一心に観察して上手く捉えて爽やかな一首に仕上げた。無駄なことは何一つ言わない、気持ちも込めない、これぞ写実の王道と思う一首だ。

夕方に子どもの声が遠ざかる明日の朝待つ無人のバス停

北海道教育大学附属旭川中学校 2年 戸田 樹里

【講評】バス停の擬人化がとても良い。バス停は夕方にバスを降りた子供たちを見送ったとでも言いたげだ。発想が斬新である。バス停は孤独な夜を耐えて朝を待つしかないのだ。

平成のやんちゃ話を聞いていて母をやっかむ令和の私

北海道教育大学附属旭川中学校 2年 村本 愛梨

【講評】令和になり早六年、作者の母は平成に「やんちゃ」な青春を過ごしたようだ。時代が異なるから令和には考えられない武勇伝なのかも知れない。母親と娘の良好な関係も伺える微笑ましい歌だ。

夏の日の爽やかな風と差し込む陽キャンピングカーのベッドの上で

北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程 8年 松下 音々

【講評】「キャンピングカー」という目を引く言葉がこの歌を際立たせている。「差し込む陽」の中、ベッドの上でゴロンとしたらどんなに気持ちが良いだろう。そんなベッドに読み手を誘ってくれる。

高校生の部

体育祭勝負に燃える挑戦者全校生徒の眼差し浴びて

旭川実業高等学校 1年 長田 清美

【講評】どんな競技かわからないが、挑戦者は一身に全校生徒の視線を浴びて挑んでいる。一瞬で勝負が決まるような緊迫感が伝わる。その一瞬を巧みに切り取り見事な一首に仕上げた。

恋心ハッキリできず悶々と私の好きはLoveかLikeか

札幌創成高等学校 2年 椿 浩登

【講評】作者は気になる人がいるらしい。その恋心はどんな思いなのかと「悶々と」しているのだ。きっとLike以上だと思うが、「LoveかLikeか」で表現したところがユニークである。

高文連佳作に入賞夢叶う人には見えぬ努力が誇り

札幌龍谷学園高等学校 2年 長尾 一輝

【講評】具体的な種目はわからないが、夢が叶い入賞をした。それは陰ながら努力をした結果と自らに言い聞かせているようだ。本短歌コンテストにも入選をした作者にエールを送りたい。

「人生に夢は必要」と解れども白紙のままの進路志望書

北星学園大学附属高等学校 2年 五十嵐美結

【講評】作者は自分の将来を決めかねているようだ。夢と現実の間にいる。難しい題材に挑戦をして、進路に迷う気持ちは一首にまとめた。具体的な「白紙」の「進路志望書」が効果的である。

瞬間が明暗分ける溶接は夏の夜に咲く火花のようだ

北海道旭川工業高等学校 3年 岩部 龍弥

【講評】授業で溶接の実習をしているのだろうか。「瞬間が明暗分ける」とは、実体験から生まれた言葉だ。溶接面を通して見ると辺りは夜のように暗く、「火花」とあるが花火にも感じたのだろうか。

雨音に濡れて色増す紫陽花よ移ろう季節を静かに告げる

北海道小樽水産高等学校 1年 氏家 柊

【講評】雨に濡れる紫陽花を見つめて一首にまとめた。紫陽花は色を増していくけれど、それも永遠ではなくやがて紫陽花も色あせて季節は移っていくと感している。大人びた感性が光る。

早朝の函館線で眼に映る光輝く銭函の海

北海道小樽水産高等学校 1年 川島 匡遥

【講評】作者の高校のある小樽から札幌へ向かうと左側に日本海が広がる。早朝だから札幌方面からの通学かも知れない。ただ風景を詠っているが、美しさを過不足なく表現している。

はじめての航海実習若竹丸海から見えた小樽の景色

北海道小樽水産高等学校 1年 幸野 朝吉

【講評】具体的な実習船名「若竹丸」が効果的。水産高校のある若竹町からその名が付いたようだ。海から小樽の町を見たとき、いつもの見慣れた街並みも変わって見えたことだろう。

黄昏に一人下向く路地裏で憂いを帯びた猫の眼差し

北海道小樽水産高等学校 1年 坂元杏里沙

【講評】黄昏に一人で下を向きながら路地裏を歩いていると猫と出くわした。自分の気持ちを映し出すかのように猫の眼差しも憂いを帯びて見えたのだ。気持ちの託し方が印象的である。

火の海を駆ける獅子舞颯爽とこれぞ古平地元の祭り

北海道小樽水産高等学校 1年 鈴木 璃玖

【講評】地元で有名な「天狗の火渡り」を詠んだ。祭りを誇りに思う気持ちも伝わる。祭りを知らなくても生き生きと表現されていて実際に観てみたくなる。迫力を上手に表現している。

静寂と見送る夕日ブランコをこいで家族の帰りを待った

北海道釧路湖陵高等学校(定時制) 3年 浅野 心温

【講評】家近くの小さな公園のブランコで家族の帰りを待つ作者の子供時代が浮かんだ。公園の静寂の中、時間と共に変化する夕日を見ながら家族を待つ心細さが上手に表現されている。

無常の世揺らぐ価値観そんな日は鏡の中の私を見つめ

北海道札幌南高等学校 1年 関井 悠良

【講評】現代の情報量の多さが「無常の世」を加速させている。情報に振り回され価値観も揺らぐ。そんな時に自己と対峙する術を作者は知っている。難しいテーマを見事に一首にした。

夏の夜希望の聖火灯されて輝き放つ涙とメダル

北海道弟子屈高等学校 3年 今川龍之輔

【講評】パリオリンピックの聖火は宙に浮くように演出され夜空に映えた。喜びの涙、悔し涙の中、メダルを目指して競技は進むが幸せな世界を願う作者の心境も読み取れた。

インターハイみんな目指す夢舞台汗が滴る僕たちの夏

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 2年 三浦 陽菜

【講評】毎年8月を中心に開催されているインターハイ。どんな団体競技に仲間と力を合わせて挑んでいるのだろう。忘れられない青春の夏を明るく爽やかに一首に表現した。

この夏を頑張れるかで決まるだろう未来の僕が笑っているか

酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 3年 菊地 天馬

【講評】高校3年生らしい歌に惹かれた。素直な詠い方に好感が持てる。夏休みの努力次第で未来が決まるとわかっている作者。頑張るしかないのだ。決意の歌でもある。